

## 第二十九回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史探訪(川崎宿3の2)

平成20年5月1日(木) (集合; 京急線「京急川崎駅」改札口10時厳守)

行程; 京急川崎駅→一行寺→長十郎梨古里→万年屋跡→田中本陣跡→助郷会所跡→宗三寺→高札場・問屋場跡→小土呂橋→芭蕉句碑→熊野神社・一里塚→専念寺→鶴見橋関門旧跡→寺尾稻荷道道標→鶴見神社→鶴見駅。

### ※東海道川崎宿

川崎宿は他の宿より遅れて1623(元和9)につくられました。開設後は厄よけで知られる川崎大師信仰が大いに栄え、旅人はもちろん多くの参拝者の往来で賑わいを見せました。又、幕末には下田から江戸へ向かったアメリカ総領事ハリスも、此处(万年屋)に泊まったと言われています。現在、都市化や第二次大戦の戦火のため、当時の景観は全く残っておらず、わずか少数の寺院にその痕跡を残すのみとなりました。

江戸時代の主要道路であった五街道(東海道・中山道・甲州街道・奥州街道・日光街道)は幕府が平和維持・参勤交代の便のために道路の整備に努め、それが商業の発展とあいまった。

規模(正徳元年, 江戸時代=1771) 宿高1321石387合

家数541・人口総数2433(男1080・女1353)・旅籠屋72・本陣2・脇本陣0

1・長十郎梨の古里・川崎大師の灯籠と明治天皇渡御碑; 明治中頃、大師河原村の当麻辰次郎がつくた新種は病害に強く甘みがあり、後にその屋号を取って「長十郎」と名付けられた。

2・万年屋跡; 蜀山人太田南畝が「万年やいく 万年も万年や奥の座敷の奥々で飲む」と詠んだ万年屋。茶飯・大豆・小豆・栗などを入れて炊き込んだ奈良茶飯が名物。

### 3・旧田中本陣跡

田中丘愚は1662(寛文2)武州多摩郡平沢村の農家に生まれたが、川崎宿本陣をつとめる田中家に認められ養子になり、問屋・名主として川崎宿の復興に腕を振るった。流失した六郷橋の替わりに渡し場を設けることを幕府に願いで、その渡し場の賃を得て傾いた宿場財政を再建させた。又、経世済民を学び、詩歌、俳諧の世界にも遊んだ。1720(享保5)上方に紀行して見聞を広め、翌年「民間省要」を

著し民政を論じた。これが八代将軍吉宗の目に触れ抜擢され荒川・酒匂川の治水等の業績を残した。

#### 4・一行寺（浄土宗・専修山念仏院・本尊，阿弥陀如来）

1631（寛永8）宿場として活気をおびてきた川崎宿の新宿町に、念仏弘通の道場として矢向（やり）良忠寺の18代円超（エンチョウ）大和尚が開いた。本陣火災の祭の宿泊避難場所でもあった。おえんまさま・閻魔堂ご開帳日（地獄の釜の開く日）1月16日、7月16日縁日、1784（天明4）江戸の絵師宋庵が描いた「地獄・極楽図16幅」を掲げて甘酒などが振る舞われる。客殿正面の額は徳富蘇峰書である。

#### 5・宗三寺（曹洞宗・瑞龍山・本尊，釈迦牟尼仏）

創立年代不詳、かつて、川崎宿の中心に位置し、源頼朝の時代に僧玄統が開き建長寺の末寺で臨済宗の寺だった。佐々木高綱（鎌倉初期武将石橋山、宇治川、名馬池月、～1214）この辺り領したとき菩提寺として栄えたが、次第に寂れ、天正（1573～92）の頃、小田原北条氏に仕える間宮備前（マヤブゼン）守信盛が近郷を領したとき、高綱の子孫（実際は子孫でなく分家と言う）である縁で土地を寄進、宝泉寺（鶴見区末吉）の僧自山（ジザン）を中興開山として迎え曹洞宗に改宗。当寺の薬師如来は延暦6年（787）海中からこの村の岸に浮かび上がったのを村人が砂をかき集めその上に安置したと伝う。墓地に宗山寺歴住塔右隣間宮信盛供養塔・一番奥隅に川崎貸座敷組合建立遊女供養塔。

#### 6・助郷会所跡・問屋場跡・近畿日本ツーリスト向かい案内板）

宿場の公用を行う事務所、主な仕事は幕府の公用旅行者のために人足や馬、宿場場所の手配をしました。その人馬は助郷会所に集められました。

#### 7・高札場跡（問屋場跡向かい・奥に惣兵衛中本陣）

幕府発令の法令、禁令など木札に墨書きされ表示された場所。

#### 8・古土呂橋の擬宝珠（欄干ぎぼし）

かつて、東海道と新川堀の交差点地点にあった石橋が古土呂橋。現在は暗渠になり姿を消し地名と擬宝珠だけが残っています。

#### 9・上手土居（カミドイ・京見付）

東海道を京都側から入った川崎宿入口。

## 10・芭蕉句碑

1694年（元禄7）江戸の庵を立ち、郷里の伊賀へ帰る道中、同道してきた門弟達と分かれる際に詠んだ句が書かれています。「麦の穂を たよりにつかむ 別れかな」。

## 11・熊野神社（祭神、国常立尊、伊邪那岐命、伊弉奈美命）

弘仁年中（810～824）紀州熊野の別当尊慶が勧請したと言う。明治5年京浜間鉄道の敷地に当たり旧宇道上耕地から今の地に鎮座した。明治6年村社。徳川家康入国に際し、武運を祈った神社。社殿は赤尾浪士ゆかりの宮大工、渡辺喜右衛門及び、その子孫により造営された。境内には江戸時代の俳人加舎白雄（1738～1791・カヤヲ・蕉風俳諧の作法を平易に説いた）と大島蓼太（1718～1787・オシマリュウタ）が、鶴見橋を詠んだ句碑がある。

12・専念寺（浄土宗・結戒山・本尊、阿弥陀如来坐像・寺宝、定朝作伝紫式部守り本尊先手観音・市場観音）紫式部の持念仏と伝えられる「市場観音」が奉られています。富士山から飛んで来たと言われる「夜光石」「お乳石」でも有名です。天保13年（1842）徳川10代将軍家治（イハル・在職1760～1786）の娘盛姫の帰依を受け寺門の隆昌を見る。

13・市場一里塚（日本橋から5番目のもの・塚は五間四方基本）

## 14・鶴見橋関門旧跡（文久2年＝1862生麦事件）

生麦事件後も相次いで攘夷派浪士による殺傷事件取り締まりのため置かれた番所の1つ。川崎・保土谷間に置かれ、鶴見橋は5番目でした。

15・寺尾稻荷道標（鶴見図書館）・寺尾道

16・鶴見神社（祭神、素戔嗚命、五十猛命、伊弉諸命他20神を合祀）

推古天皇時代（554～628・在位592～628）創建と伝えられ、昔は身祿神社と呼ばれていました。毎年4月29日に、民俗芸能「鶴見の田祭り」が行われる。

万年屋跡～田中本陣跡～市場一里塚

